

# ケニア・テロ情勢

平成27年4月26日

在ケニア日本大使館

# テロ攻撃の標的

## 要警戒施設

1. 政府関連施設
2. 軍・警察関連施設
3. 外交団、国際機関関連施設
4. 米国、英国、イスラエル権益施設
5. ショッピングセンター、レストラン、ナイトクラブ、イベント会場、観光施設、キリスト教会、ホテル  
大学・教育施設
6. 高層ビル
7. 航空機・空港、列車・駅など交通機関
8. ガス・石油等大規模プラント・プロジェクト施設

# 在ケニア米国大使館爆破事件



- 1998年8月7日午前10時30分頃、ナイロビ市内シティセンターの米国大使館に対し、大量の爆薬を積載したトラックが突撃し、爆破
- 米国大使館は激しく損壊し、隣接ビルは倒壊
- 爆風と熱風により付近走行車両も多数炎上
- **死者218名、負傷者5,000名以上**
- アル・カーイダによる犯行
- 同日ほぼ同時刻には、ダルエスサラームの在タンザニア米国大使館も爆破



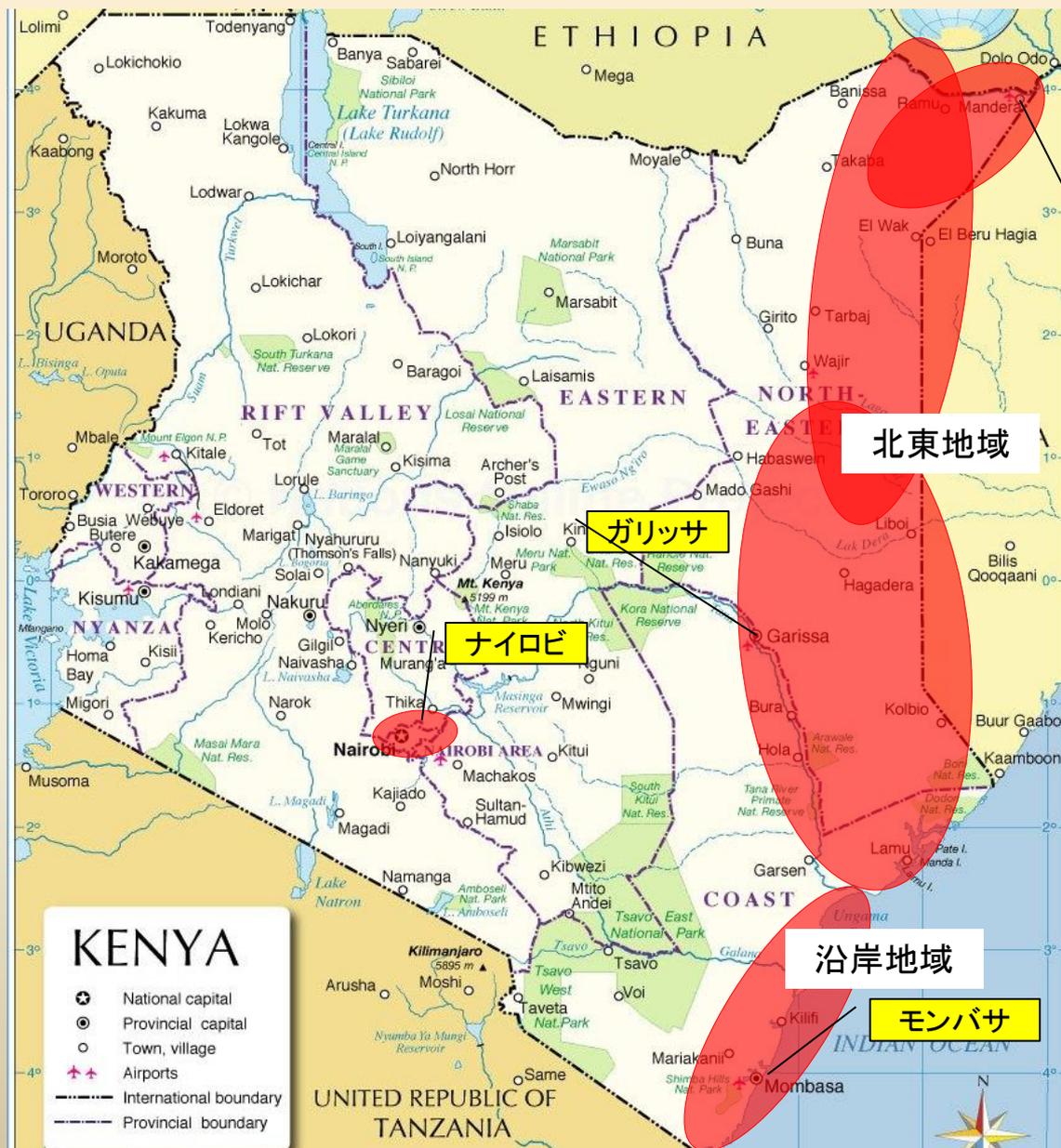
8月7日記念公園

# 近年のケニアにおけるテロ情勢

- 2011年9月・10月、外国人観光客がケニアからソマリアに連れ去られる誘拐事件が発生。誘拐事件は、ソマリアを拠点とするイスラム過激派組織アル・シャバーブ(AS)の関与が指摘され、ケニア政府は、事件をきっかけとして、2011年10月、ASの掃討を目的として、ケニア軍をソマリアに派兵した。
- ケニア軍の進攻後、ASはケニアに対し、報復テロ攻撃を行う旨を宣言。以来、ナイロビ及びモンバサ市内、北東地域ガリッサ郡等において、軍・警察等関係施設、ホテル、ショッピング・センター、レストラン・バー、教会等を標的として、手りゅう弾・簡易爆弾・銃器によるテロ攻撃が多発した。
- 2012年9月、ケニア軍を中心とするアフリカ連合軍は、ASの最後の拠点とされたソマリア領内港町キスマヨを制圧した。しかしながら、ASは、ソマリア中南部に潜伏してゲリラ戦に転じ、首都モガディシュ等に対するテロ攻撃を継続。同じく、ケニアに対しても、ナイロビ及びモンバサ市内、北東地域においてテロ攻撃を継続した。
- 2013年9月、ASはナイロビ市内ショッピング・モール「ウエストゲート」を襲撃し、女性子供・外国人多数を含む67名を殺害した。同事件後、ケニア軍はソマリア領内においてASに激しく攻勢をかけ、ASは指揮官・兵士、拠点を失い撤退を重ねるが、2014年5月にはナイロビ及びモンバサにおいて旅客バス、マーケットに対する連続爆弾攻撃を敢行、同年6月には沿岸地域ラム郡ムケプト二周辺地域において連続襲撃を行い、住民94名を虐殺した。
- 2014年9月、米軍爆撃機はAS最高指導者を殺害。ASは新指導者を選出し、ケニアに対する更なる報復攻撃を宣誓し、11月・12月、北東地域マンデラ郡において長距離旅客バス・採石場に対する襲撃を敢行し、64名を虐殺した。また、ASはソマリアにおいて、首都モガディシュに対するテロ攻撃を継続した。



# ケニアにおけるテロ攻撃及び攻撃情報地域





# ナイロビ市内ショッピング・モール 「Westgate」襲撃事件



- 2013年9月21日 **昼頃**、ナイロビ市内の高級ショッピング・モール「Westgate」に対し、4名の武装集団が、手りゅう弾及び銃器により襲撃
- 武装集団は、人質を取って施設内に立てこもり、その後、4日間に渡り治安部隊と激しく交戦
- イスラム過激組織アル・シャバーブ(AS)は、自らのツイッター上で、**ケニア軍のソマリア進攻に対する報復攻撃**であるとして犯行声明
- **死者67名・負傷者174名(女性子供多数)**
  - ※英国人6名、カナダ人2名、フランス人2名、オーストラリア人1名、オランダ人1名、中国人1名、韓国人1名等が死亡、日本人も事件に遭遇
- ケニヤッタ大統領は、テロと断固として闘う強い意志を表明

# 商用施設・マーケットに対する爆弾テロ事件



## 【シティセンター地区商用施設に対するテロ事件】

- 2012年5月28日(火)13時15分、ナイロビの中心街シティセンターのモイ・アベニュー沿いにある商業施設で簡易爆弾(IED)による爆弾テロが発生。
- 店にいた店員や客36名が負傷し、その内1名が死亡。爆発は天井のトタン屋根を吹き飛ばし、床に穴を開け、店内の鉄筋などを曲げる威力。
- 犯人と疑われる男は、当日、事前に買物客を装い店舗を訪れており、**セキュリティ状況を下見**していたとされる。



## 【カムクンジ地区における連続爆弾事件】

- 2014年5月16日午後2時40分頃、カムクンジ地区(市内中心部から東方約1.5キロメートル)のギコンバ・マーケット内において簡易爆弾が連続して炸裂、**12名死亡・負傷者70名以上**。
- 2014年10月、ケニア警察は、ナイロビ市内イスリー地区において、**2人の女性自爆テロ要員**を含む10人のASメンバーを摘発。同グループの主要な標的は、同ギコンバ・マーケットであった。

# 乗り合いバス(マタツ)に対する爆弾テロ事件



イスリー地区  
バス爆破事件

## 【イスリー地区におけるバス爆破事件】

- 2012年11月18日 **夕刻**、ナイロビ市内イスリー地区において、走行中の中型乗り合いバスの車内に仕掛けられた簡易爆弾が爆発し、10人が死亡し30人以上が負傷した。
- 発生後、テロ攻撃に怒った若者多数が、ソマリア人に対する襲撃行為や商店の略奪行為を行った。

## 【パンガニ地区におけるバス爆破事件】

- 2013年12月14日 **18時頃**、ナイロビ市内パンガニ地区(Pangani、イスリー地区と接する)において、走行中の中型乗り合いバスが、車内に仕掛けられた簡易爆弾により爆発し、4名が死亡し、35名以上が負傷した。



ティカ高速道路  
バス爆破事件

## 【ティカ高速道路におけるバス連続爆破事件】

- 5月4日 **午後5時過ぎ**、市内中心部から出発したティカ高速道路上を走行中の大型乗り合いバス内の簡易爆弾が炸裂、その約30分後、第1爆発現場から約2キロ離れた地点で同じく走行中の大型乗り合いバスが連続爆破、死者3名・負傷者50名以上。

# イスリー地区における大量の爆弾等押収事件



○ 2012年9月13日、ケニア警察は、**ナイロビ市内イスリー地区**において、大量の爆弾・銃器を押収し、これら爆弾・銃器の隠匿に関与し、ASのメンバーとされる男性2名を逮捕した。

○ テロ攻撃の標的は、ナイロビ市内**シティセンター**に位置する**議会議事堂、教会**であったとされている。

**爆薬が装てんされた自爆テロ用ベスト4着  
簡易爆弾2個、手榴弾12個、AK47ライフル銃4丁、  
480発の弾丸等**

## イスリー地区 (Eastleigh)

○ ナイロビ市内中心部から北東約3キロメートルに位置

○ 人口約10万人。大多数は、ソマリ系。通称「リトル・モガディシュ」、建設・商業が活況。

○ 報道等によれば、以下が指摘。

- ・ ASへ資金支援、資金送金の経由地、ASの隠れ家、最終作戦計画・出撃拠点、リクルート場所
- ・ ソマリアの海賊マネーのマネーロンダリング場所
- ・ ソマリアからの武器密輸の終着点

○ ケニア軍のソマリア進攻後(2010年10月)、**周辺地域では爆弾テロ事件が多発**している。主要各国は同地区を渡航禁止地域に指定。

○ 2014年4月、治安当局はイスリー地区を中心とする地域に対し、大規模なテロリスト及び不法滞在者の摘発作戦を実施。不法滞在者や難民ら4000人以上を拘束した。作戦は、手法が非人道的、イスラム教徒やソマリア人狩り等とイスラム・コミュニティからは大きな非難が上がった。

行かないでください!





## 2015年1月からのナイロビのテロ情勢

### 【ナイロビ市内における軍用爆薬捕獲事件】

- 2015年3月13日金曜午後、ケニア警察は、北東地域マンデラ郡からナイロビ市内イスリー地区に向かう長距離大型バスを市内ティカ道路上で停止し、乗車していた2人を逮捕した。
- 2人はASのメンバーであり、ビルを倒壊させることが可能な強力な軍用爆薬を所持していた。
- 標的はナイロビ市内のショッピング・モール、ホテル等ソフト・ターゲット、または議会議事堂など政府関連施設を標的としていたとされる。

### 【豪政府による渡航情報の発出】

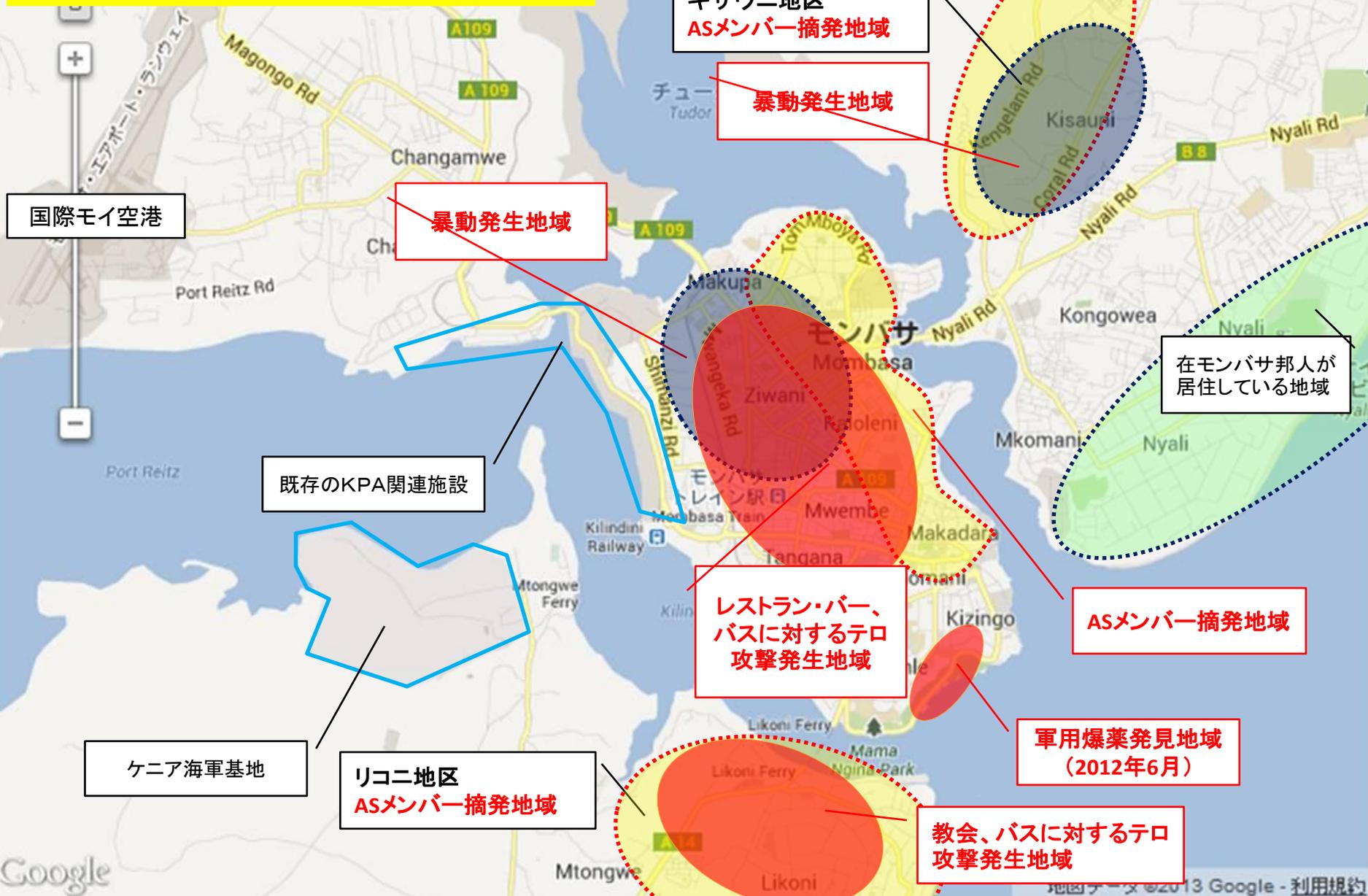
- 3月27日、豪政府は、「最近の情報によれば、近い将来、ナイロビ市内の人々で混雑する場所において、テロリストが攻撃を行うことを計画している。」とする渡航情報を発した。

# 沿岸地域 (Coast)

【モンバサ、ラム、タナ・リバー、キリフィ、クワレ】



# 沿岸地域のテロ情勢 【モンバサ・テロ攻撃等発生地域】



# 外国人観光客等に対する誘拐事件

## 【英国人観光客女性に対する誘拐事件】

- 2011年9月11日、ソマリア国境から約50Km南方に当たるラム郡・キワイユ島(Kiwayu Island)のリゾートホテルに宿泊中の英国人夫婦のコテージを武装集団が襲撃。夫を射殺後、妻をモーターボートでソマリアへ連れ去った。
- 同女性は、2012年3月解放された。

## 【フランス人在留女性に対する誘拐事件】

- 2011年10月1日、ラム郡・マンダ島(Manda Island)の海岸に面するフランス人女性の自宅を武装集団が襲撃。同女性をモーターボートでソマリアへ連れ去った。
- 同女性は、ソマリア国内で死亡した。



# 外国人向けレストランに対する爆弾テロ事件

## 【モンバサ市内レストランに対する爆弾事件】

○ 2012年5月15日午後9時30分頃、モンバサ市内中心部モイ・アベニュー沿いにある人気レストラン「ベラ・ビスタ」に対し、手りゅう弾3発が投てき。警備員1名が死亡し、客等3名が重傷を負った。

○ レストランは、外国人の利用が多い、オープンテラス式であった。



## 【沿岸地域クワレ郡ディアニ海岸におけるナイトクラブに対する爆弾事件】

2014年1月2日午前3時30分頃、リゾート地であるディアニ海岸にあるナイトクラブに対し、何者かが手りゅう弾を投てき、新年を祝うケニア人観光客等10名負傷。

## 参考

## 【2002年インドネシア・バリ島 ナイト・クラブに対する爆弾テロ事件】

2002年10月12日午後11時頃、バリ島内に所在する外国人向け人気ナイトクラブに対し、自爆テロ犯・路上に駐車した爆弾積載車両による爆破攻撃。豪、英、米等多数の欧米系外国人を含む202名死亡、うち2名は日本人夫婦。



# モンバサ市内自動車爆弾車両の発見事件



ダッシュボード下部に隠し込まれた円柱形爆弾

- 2014年3月11日、ケニア警察により捕獲され、モンバサ警察敷地内に搬送された車両から、3月17日、車両内に隠し込まれた**170キロ以上もの爆弾**が発見。
- 爆弾は、6個のTNT火薬からなる円柱型爆弾であり、車両(トヨタ・ハイラックス)のダッシュボード、後部座席裏側及び後部座席床に溶接された状態で固定。爆発物専門家らによれば、典型的な自爆テロ用の自動車爆弾であり、**威力は1998年米国大使館爆破事件に匹敵。14階建てのビルを吹き飛ばすことができる破壊力。**
- 同車両内からは、**手りゅう弾6個、AK47ライフル銃1丁、弾丸270発、弾倉6個など大量の武器も発見。**
- 警察によれば、同自動車爆弾はソマリアから運び込まれ、乗車人物であった2人のケニア国籍ソマリア人男性は、**ASメンバー**である模様。
- 報道では同車両と同様の車両は**他に複数台存在する模様。今後、ナイロビ及びモンバサで、同自動車爆弾車両を使用した大規模テロの発生する危険性は極めて高い。**

# ラム郡ムペクトニ町及び周辺地域における連続襲撃事件



- 2014年6月15日午後8時頃、ラム郡のムペクトニ町及び周辺において、AK47ライフル銃、ロケット・ランチャー等で重武装した覆面姿の20名以上の民兵が、警察署、ホテル3箇所、ガソリンスタンド、車両20台以上を襲撃・放火。
- 襲撃者らは、銃撃と刃物により、警察幹部を含む7名を含む48名を殺害。非イスラム教徒のみを至近距離から頭部に銃撃を加え、またはナイフで喉を切り裂いて殺害した。
- ケニヤッタ大統領は、襲撃事件に関し、アル・シャバーブ(AS)によるものでなく地元の政治的な対立に基づく煽動が背景にあると発表。その後、ASは、ケニアに対する報復攻撃である旨の犯行声明を発出。
- キマイヨ警察長官は、犯行はモンバサ共和評議会(Mombasa Republican Council: MRC)によるものであり、「政治宗教的、土地問題に根ざした動機」であることを指摘。
- 襲撃事件は、その後、ムケプトニ町及び周辺地域、隣接するタナ・リバー郡タナ川三角州地帯において、翌16日、23日、7月5日、10日、18日と連続発生し、発生から計94名が殺害された。
- その後の捜査では、AS、モンバサ共和評議会、地元の政治的対立のいずれも事件に関与の様相。

# モンバサ郡におけるケニア軍兵舎・ マリンディ郡における警察駐屯地同時襲撃事件



- 2014年11月2日午前5時30分頃、沿岸地域モンバサ郡ニェリ地区のケニア軍兵舎及びキリフィ郡マリンディのケニア警察駐屯地に対する襲撃事件が、大雨が降りしきる中、ほぼ同時刻に発生した。
- ケニア軍兵舎に対し、襲撃者は、銃やナイフで武装した約20人からなる若者であり、歩哨兵を襲撃し、兵舎の壁をよじ登り侵入を試みたが、応戦した兵士に撃退。銃撃により襲撃者側7人死亡、襲撃によりケニア軍兵士1人が死亡した。
- マリンディ警察駐屯地に対し、襲撃者は、銃や銃・ナイフ等で武装した20人以上からなる若者であり、応戦した警察官らにより撃退されるまでの間、キャンプ地内に駐車された5台の小型三輪自動車（通称トゥクトゥク）を含む自動車を破壊した。
- 犯行動機は、襲撃者らは死者を出すことも覚悟の上で、兵舎及び警察駐屯地を襲撃し、武器を奪うことが目的であったと見られている。警察は、ケニアの沿岸地域において分離独立を目指す非合法組織モンバサ共和評議会(Mombasa Republican Council:MRC)の構成員を逮捕。
- 2011年10月のケニア軍のソマリア進攻以降、これまでケニア国内で軍事施設はテロの標的とされつつも、嚴重な警備体制ゆえ襲撃されることはなかった。

# イスラム過激思想を流布する宗教指導者と若者の急激な過激化

## 【イスラム教宗教指導者殺害事件】

2014年4月1日午後、モンバサ郡において、イスラム教宗教指導者が何者かの銃撃により殺害。ケニア警察によれば、同指導者はジハード主義を支持し、若者を過激化させ、若者らをASにリクルートしていた等として立件中であった。殺害後、モンバサ市内のマジェンゴ地区のモスクにおいて、同指導者を支持する若者らによるデモが発生。道路封鎖を行い、警察部隊と衝突した。2012年8月及び2013年10月にも同様の宗教指導者殺害事件が発生し、殺害に抗議する若者らによる大規模暴動が発生した。

## 【イスラム教徒の若者の過激化】

2013年12月から、沿岸地域においてイスラム教徒の若者の過激化が治安上の大きな問題化。穏健派モスクに対する急襲や同モスク参集者の短時間軟禁、また、ジハード主義を掲げた集会を開催した。若者の過激化動向は、モンバサ等にとどまらずナイロビにも拡大。背景には、イスラム過激主義を流布する宗教指導者の存在のみならず、若者らの貧困、社会からの疎外感や失望感等ケニア社会に根ざした問題があると言われている。

# モンバサにおけるモスク摘発と イスラム過激主義に傾倒する若者らの暴動



- 2014年11月17日午前2時頃、480名からなる警察部隊はモンバサ市内マジエンゴ地区に位置するムサ・モスク及びサキナ・モスクを摘発し、若者1人を銃撃により死亡、若者251人を逮捕した。
- モスクからは、手りゅう弾6個、けん銃2丁、弾丸6箱、鉈・ナイフ・刀剣類多数、カメラ類、旅券、運転免許証、ケニア国民ID、無犯罪証明書、ASの旗と酷似した旗、双眼鏡、パソコン類、ケニア警察記章、「AK47ライフル銃の取扱い方」や「ジハード主義」等のCD多数を押収。
- 17日夜間、モンバサ市と隣接するキサウニ地区では、モスク摘発に抗議する若者らのデモが発生し、暴徒と化した若者らはパンガで3名の人々を殺害し7名に重傷を負わせた。19日未明、警察部隊は、同地区にあるミナ・モスクとスワファ・モスクの2ヶ所に対して摘発を行い、手りゅう弾1個、ガソリン爆弾9個、弾丸9箱、起爆装置、鉈・ナイフ等を押収。また、同モスクに出入りし、暴動に参加していたと思料される若者109人を逮捕した。
- 警察は、摘発を実施した4ヶ所のモスクは、ASと関連を有する過激化した若者らの活動拠点であり、かつ、武器庫でもある等として同モスクを閉鎖した。モスクの摘発及び封鎖に対し、イスラム・コミュニティ出身の政治家、宗教関係者らは大きな批判の声を上げた。
- モンバサにおけるモスク摘発とイスラム過激主義に傾倒する若者らの暴動は、2012年8月、同年10月、2013年4月に暗殺されたイスラム過激主義宗教指導者らが活動し、拠点とする地域であり、殺害後、同人らを信奉する若者による暴動が発生し、死傷者、教会や店舗の放火等が発生した。

# 2015年1月からのモンバサ等沿岸地域のテロ情勢

## 【ラム郡東部におけるケニア軍に対する襲撃事件】

- 1月1日、ラム郡東部ミリマニにおいて、AS民兵が走行中のケニア軍トラックに対し、襲撃を行い、ケニア軍兵士3人が重傷した。
- 1月14日、ラム郡東部バスバ周辺地域において、ケニア軍に対してAS民兵が襲撃を行い、兵士1人が死亡し、3人が負傷した。ケニア軍は、5人のAS民兵を殺害した。

## 【モンバサ市内におけるキリスト教会職員襲撃事件】

○1月11日日曜日午前、モンバサ市内マジェンゴ地区にあるキリスト教会において、オートバイに乗車し、AK47ライフル銃を所持した襲撃者の銃撃により、日曜礼拝の準備中であった同教会職員が殺害された。過激化した若者らによる犯行と目された。

## 【英政府による渡航情報の発出】

- 3月27日、英政府は、沿岸地域タナ・リバー郡の沿岸部からキリフィ郡、モンバサ郡、クワレ郡のトゥイにいたる海岸線から15キロの沿岸部地域一帯の渡航情報を「必須の渡航以外は禁止 (Advise against all but essential travel)」へと引き上げた。
- 雨期に入り、ケニア軍によるラム郡の森林地帯に潜伏するASの追跡が困難となることに乗じて、ASはキリフィ郡マリンディやワタムに対する襲撃を計画しているものとされた。

# 北東地域 (North-Eastern)

## 【ガリッサ、ワジア、マンデラ】



# マンデラ郡ソマリア国境地帯における襲撃事件

## 【マンデラ郡における長距離旅客バス襲撃事件】

- 2014年11月22日午前5時30分頃、マンデラ郡ソマリア国境地帯の丘陵地帯を走行中のマンデラ発ナイロビ行き長距離旅客バスに対し、AK47ライフル銃で武装した民兵が襲撃を行い、乗客全員を降車させた後、**非イスラム教徒の乗客に対して銃撃を行い、28名を殺害した**。犠牲者は、マンデラ郡に派遣された教員24名、警察官・政府医療関係者4名であり、**女性が9名含まれていた**。
- 乗客全員にコーランの一節等を暗唱させることで、**イスラム教徒と非イスラム教徒に分け、非イスラム教徒のみを**一列、腹ばいに伏せるように命じ、至近距離から頭部に銃撃を加えて殺害した。
- 同日、ASは犯行声明を発出し、ケニア警察によるモンバサのモスク摘発に対する報復攻撃であることを主張した。
- ルト副大統領を始めとする政府指導者らはケニア国民に対し、**イスラム教徒に対する怨恨を煽り、国内に分離と対立、混乱をもたらそうとするASの策略**に陥ることがないように訴えた。



## 【マンデラ郡における採石場襲撃事件】

- 2014年12月2日午前1時頃、マンデラ郡のソマリア国境地帯にあるコロメイ地域(Koromei)の採石場に対し、AK47ライフル銃で武装した30人位からなる民兵が襲撃を行い、**作業員36名を殺害する襲撃事件**が発生した。
- **全ての犠牲者は非イスラム教徒**であり、同日、ASは犯行声明を発出した。



# アル・シャバーブによる外国人に対する誘拐事件

## ガリッサ郡ダダーブ難民キャンプ

- 2011年10月14日、北東地域ガリッサ郡ダダーブ難民キャンプにおいて、スペイン人女性NGO活動家2名が武装集団の襲撃を受け、ソマリアへ連れ去られた。同女性は、2013年7月に解放。
- 2012年6月29日、北東地域ガリッサ郡ダダーブ難民キャンプにおいて、ノルウェー系NGO活動家(ノルウェー人男性、フィリピン人男性、カナダ人男性、パキスタン系カナダ人女性)が武装集団の襲撃を受け、ソマリアへ連れ去られた。4名は、同年7月、ケニア軍とソマリア軍のオペレーションにより救出。
- 2014年4月23日、北東地域ガリッサ郡ダダーブ難民キャンプにおいて、同地で活動する国連車両が武装集団の襲撃を受け、ドライバーが銃撃され重傷を負った。犯人は、同国連車両を奪い、ソマリア方向へ逃走した。



## 2015年1月からの北東地域のテロ情勢

### 【ガリッサ郡ガリッサ大学に対する襲撃事件】

○4月2日午前5時30分頃、北東地域ガリッサ郡ガリッサのガリッサ大学に対し、AK47ライフル銃と手りゅう弾で武装した4名の襲撃犯が襲撃を行い、学生寮を占拠。襲撃犯は、非イスラム教徒のみを殺害し、死者148名(学生142名、大学警備員3名、警察官3名)・負傷者104名。ASは事件発生後に犯行声明を発出した。

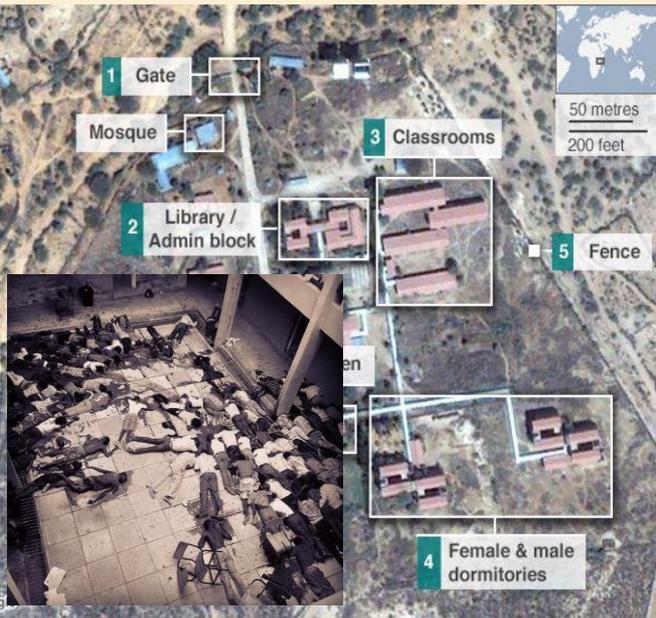
### 【マンデラ郡行政官に対する誘拐事件】

○4月23日午前7時頃、マンデラ郡アラビアからマンデラを移動中(ソマリア国境地帯)であった行政官が乗車するバスをAS民兵が襲撃。民兵らは乗客から金銭、携帯電話などを奪い、行政官を誘拐してソマリア国内に連れ去り、身代金400万ケニア・シリングを要求した。地元長老らによる交渉が決裂した結果、同行政官は木に吊され銃殺された。なお、民兵は行政官を誘拐した後、ミラーを積んだトラックを襲撃し、同トラックをも奪い去った。

### 【マンデラ郡教員に対する誘拐とケニア軍兵士に対する襲撃】

○4月24日夕刻、マンデラ郡マンデラにおいて、民兵が小学校教員2名の自宅を襲撃し、ソマリア領内に連れ去った。拉致された教員と民兵を追跡してソマリア領内に入ったケニア軍は民兵らの奇襲に遭い、3名の兵士が負傷した。後に教員の誘拐事実はないことが判明し、兵士をおびき寄せ襲撃する作戦であったものと見られた。

# ガリッサ郡ガリッサ大学襲撃事件



- 4月2日午前5時30分頃、北東地域ガリッサ郡ガリッサのガリッサ大学に対し、AK47ライフル銃と手りゅう弾で武装した4名の襲撃犯が襲撃を行い、約270名の人質を取り、学生寮を占拠。
- 襲撃犯は、非イスラム教徒のみを殺害した。大学外周をケニア軍が包囲し、武装警察部隊が午後5時頃に突入。襲撃発生から16時間後の同日午後9時30分頃に事件は終結した。
- 死者148名(学生142名、大学警備員3名、警察官3名)・負傷者104名
- ASは事件発生後、犯行声明を発売。また、4日にも再度声明を発売し、ケニア軍がソマリアから撤退しなければ、「ケニアの都市は血によって赤く染まり続けるだろう。」と警告した。
- ケニヤッタ大統領は、「ソマリアが平和で安定した国家となるまでソマリアからケニア軍を撤退させない。」とASと闘う強い意志を表明。

# テロ情勢のまとめ

- 2014年9月のAS指導者殺害後、ASは新指導者を擁立し、ケニアへの報復攻撃を宣誓したが、引き続きアフリカ連合軍の攻勢によりソマリア中南部の拠点を失うなど組織は弱体化。
- 2015年に入ってもケニア軍、米軍等によるソマリア国内のASに対する軍事作戦は継続。2月には、Westgate襲撃事件を計画・準備したとされる指揮官を殺害し、3月には南西部に位置する武器密輸及び海上交易拠点クダイ島を奪還した。ASは一層の劣勢下に陥るもソマリア国内モガディシュでは、政府関連施設、政府要人が利用するホテルへの襲撃を繰り返した。ケニアにおいてもASによる報復攻撃の脅威はナイロビ、北東地域、モンバサを中心とする沿岸地域で継続した。
- 2015年1月、シリアにおいて、イラク・レバントのイスラム国(ISIL)は、日本が実施している周辺国の難民・避難民支援を目的とした非軍事部門への支援が、ISIL勢力下の人々の殺害に繋がっているものとして、拘束していた邦人男性2名を公開処刑し、日本人は標的であることを宣言した。世界中でISILによる日本人に対する誘拐を含むテロの脅威が高まった。さらに、3月18日、チュニジアの首都チュニス市郊外においては、武装集団が外国人に人気の観光場所である国立博物館を襲撃するテロ事件が発生し、外国人を含む21名が死亡・43名が負傷し、犠牲者には日本人死亡者3名と負傷者3名が含まれた。また、チュニジアからは多くの外国人戦闘員がISILに参加し、多数の戦闘員が既にチュニジアに帰還していると言われ、今次襲撃事件の実行犯とISILとの関係も指摘された。また、3月、ナイジェリアのボコ・ハラムはISILへ忠誠を誓った。
- ASは、AQに2012年2月に忠誠を誓い、2014年9月の最高指導者殺害後も新指導者はAQに再度の忠誠を誓っていた。しかしながら、ISILの世界中のテロ組織に与える影響力は極めて大きく、2015年2月に入って報道では、ソマリア国内で劣勢下にあるASが生き残りを図るべく資金支援や外国人戦闘員の獲得などを目的にISILに合流するなどの報道が散見されるようになった。ISILからASへの接近動向など関連性は存在し、AS組織上層部ではISILへの合流を唱えるグループも出現しているとされている。合流に至れば、勢力の巻き返し、日本人への攻撃が危惧される。

# テロ情勢のまとめ

## ナイロビ

○ 2014年10月のソマリア国境地帯でのケニア軍による自動車爆弾の捕獲、イスリー地区の女性自爆テロ要員を含む多数のASメンバーの摘発、今年3月の軍用爆薬を所持したASメンバーの捕獲からも、ASは依然としてナイロビを攻撃する意思と能力を有していることは明らか。

○ ASはケニアで女性の自爆テロ要員の使用も辞さない戦略を開始した。また、ASのテロ攻撃時、女性の犠牲者が出ることはあっても、これまで女性を処刑したケースはなかったが、マンデラ郡の長距離旅客バス襲撃事件では女性9名を処刑。ガリッサ大学襲撃事件においても女性を多数処刑した。ASは、テロリスト集団として、一層の残虐性・危険性を有するに至った。

○ マンデラ郡の長距離旅客バス襲撃・採石場襲撃事件と同様にガリッサ大学襲撃事件では、ASは非イスラム教徒のみを殺害した。ケニヤッタ大統領を始め政府指導者らは、ASは、ケニア国内のイスラム教徒と非イスラム教徒を分離・対立させる策略であることを指摘し、国民の団結を訴えた。今後のコミュニティー間の緊張が危惧。

ナイロビにおいて、ASによる自動車爆弾、自爆テロベストを使用した爆弾テロ、AK47ライフル銃等による襲撃など大規模テロ攻撃発生の脅威は依然として高い。特にAK47ライフル銃や手りゅう弾は入手が容易であることから、ショッピング・モールなどソフト・ターゲットに対する攻撃が一際高い。

## モンバサ等沿岸地域

- 2014年沿岸地域の警察部隊によるモスクの摘発は、若者を過激化するための多数のCDや教本等の発見のみならず、手りゅう弾・けん銃等の武器を始め、旅券・ID、双眼鏡などテロ活動に使用され得る物品が多数発見された。
- モスク摘発行為に対し、イスラム・コミュニティー出身の政治家や宗教関係者等は、「イスラム教徒の反発を買い、若者の過激化を一層加速させて治安を悪化させる」として批判。摘発に抗議する若者らの暴動は周辺地域で発生し、通行人3名が暴徒により殺害された。
- 治安機関に対する一連のテロ事件には、モンバサ共和評議会の関与も指摘。キマイヨ警察長官は、2014年9月7日、モンバサ共和評議会はASと関係を築き、今や緊密に連携して活動していることを発表した。
- 2015年3月、英政府は、クワレ郡ディアニ海外を除き、マリンディ・ワタムが所在するキリフィ郡を含む沿岸地域一帯の渡航情報を「必須の渡航以外は禁止 (Advise against all but essential travel)」へ引き上げた。

モンバサ等沿岸地域では、ASのみならず、過激化したケニア人の若者がホームグロウン・テロリストと化しており、手りゅう弾・けん銃等を使用した中・小規模テロ攻撃が発生する脅威が高く、また、イスラム過激主義宗教指導者殺害やモスク摘発に抗議する若者の暴動発生の危険性も存在。

ボニ森林 (Boni Forest、タナ・リバー郡の沿岸部三角州地帯からラム郡北部を経てソマリア国境のボニ自然保護区まで広がる森林地帯。) に潜伏するAS民兵がラム郡ムケプト二町を襲撃事件と同様の襲撃事件が今後もラム郡、キリフィ郡マリンディやワタムにおいて発生する危険性が存在。

モンバサ共和評議会による治安機関に対する襲撃の発生も継続するものと思料。

## 北東地域

○ ソマリアと国境を接する北東地域は、住民の大多数がソマリ人から構成される。約600キロメートルのソマリアとの国境線は、ケニア警察及びケニア軍が配備されているが、この長大な国境線を警備することは困難であり、20年以上内戦が続いたソマリアからケニア国内へ難民及び武器が流入している。

○ ASは、この国境線を容易に越境してケニア国内に潜入し、ダダーブ難民キャンプに潜伏する、或いはナイロビのイスリー地区に向かうことが指摘されている。また、北東地域は、ASと同じソマリ人が大多数を占めていることから、シンパや支援者の存在が指摘されている。

○ ナイロビ及びモンバサのテロ攻撃は、事前の潜伏や武器入手などを含めた計画的なものであるの対し、ソマリア国境地帯では、ASは大胆にも20人以上で越境し、警察部隊駐屯地、長距離バスや採石場を襲撃し、ソマリア領内に撤退するヒット・アンド・ラン的な襲撃を行っている。

北東地域はASにとり襲撃を行うに極めて有利な地勢・民族構成であることから、今後もケニア国内のイスラム教徒と非イスラム教徒を分離・対立させる策略のもと、キリスト教徒を大量に殺害することが可能な教育機関、キリスト教会など施設を襲撃する可能性が高い。また、治安機関に対する襲撃の発生も継続するものと思料。ASは資金源に窮していることから、外国人・ケニア人ローカルに対する誘拐を計画していくものと思料。

# テロ攻撃への心構え

- 【その1】 ケニアは、ASの報復攻撃対象国であり、テロの脅威は日常生活空間内に潜んでいるとの認識を
- 【その2】 テロリストは重武装化しており、警備員及び武装警察官の配置などセキュリティが高い施設であっても、テロ攻撃は十分発生する可能性があるとの認識を
- 【その3】 自らが外国人であり、日本人もテロ攻撃・誘拐の標的であるとの認識を
- 【その4】 ケニアにおいて、手りゅう弾及び銃の入手は非常に容易。かつ、ナイロビ、モンバサで爆弾や銃器の押収事件が多発。これら爆弾銃器を使ったテロ事件が今後も発生する可能性が極めて高いとの認識を

# テロ攻撃からのリスク軽減策

- 【その1】 通勤時間帯・夕刻など混み合う時間帯のバス停留所等には近づかない、**乗り合いバス(マタツ)**への乗車を控えるよう警戒を
- 【その2】 **欧米系外国人客の多いショッピング・センター**など利用時は、十分過ぎる警戒を
- 【その3】 買い物等は、**人で混み合う時間帯を避け**、午前中の早い時間などの工夫を
- 【その4】 **正面エントランス及び付近**での待ち合わせ、同じく正面エントランス付近のレストラン・カフェ等は避けるなどの警戒を
- 【その5】 **セキュリティーの十分なホテル**の利用を。**ロビー及び付近**での待ち合わせ、同じくロビー付近のレストラン・カフェ等は避けるなどの警戒を
- 【その6】 周囲の状況から、**不審な人物(著しく厚着、覆面やフード姿、大きな手荷物、リュック等)**には注意し、発見時はその場から離れるなどの警戒を
- 【その7】 **爆発音・銃撃音を聞いたら直ちに伏せる、這うように移動して柱・壁・周辺店舗などに身を隠す**、できる限り姿勢を低くし現場から退避を
- 【その8】 テロ現場付近に居合わせたら、直ちに退避し、決して現場に近付かない  
(**第2波攻撃のおそれ**)
- 【その9】 テロ現場から離れていても十分警戒し、可能な限り自宅など安全な空間に避難する(**同時多発テロのおそれ**)

# 誘拐対策

- 1 **ソマリアと国境を接する北東地域、沿岸地域ラム郡には行かないこと**
- 2 **目立たないようにすること**  
服装、行状、習慣的行動は目立たないように
- 3 **行動を予知させないこと**
  - 通勤経路、自宅を出発或いは帰宅する時間を変化させる。
  - 単独での外出やジョギングなどの運動を避ける。
  - 毎日、同一時間帯や同一場所での運動は避ける。
  - 人気のない場所には行かない。
- 4 **深夜の行動を避ける**
- 5 **常に警戒すること**
  - 怪しい人、場所、物に対する警戒心を高めておく。
  - 徒歩、車両移動中に尾行されていると感じる事象に遭遇すれば、直ちに安全な場所へ移動する(警察署、大勢の人が参集する店舗など)。
- 6 **車両移動時**
  - ドア等に社名、電話及び住所は明示しない。
  - 車両の状態を常に良好にする。
    - ・ 良好な整備状況
    - ・ 燃料タンクは半分以上に保つ
    - ・ 良好なタイヤ、スペアタイヤ
  - 隔離された道路、暗い裏通りは極力避ける。

# テロリスト・不審者



2013年9月21日  
Westgate 襲撃犯



拘束された  
女性自爆テロ犯



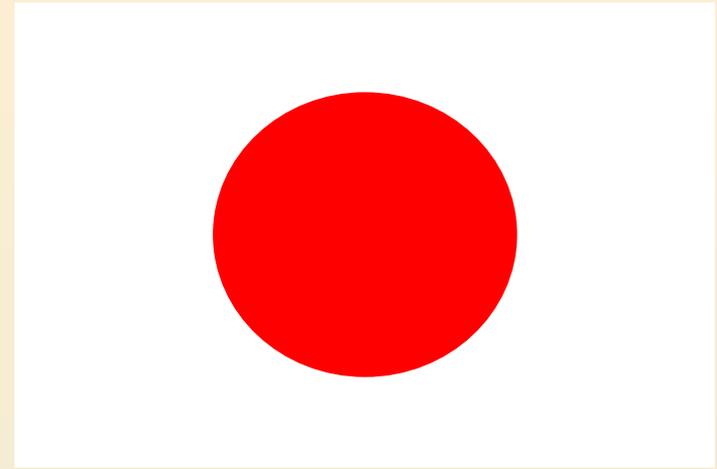
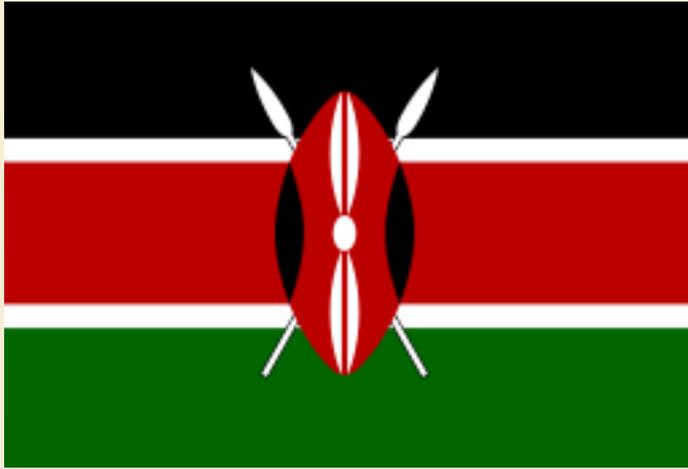
2005年7月7日  
ロンドン同時多発テロ  
自爆テロ実行犯ら



2009年7月17日ジャカルタ  
高級ホテルに対する爆弾テロ  
自爆テロ実行犯

## 在留邦人の皆様へ

ケニアで生活する私達の日常生活空間では、テロが発生する可能性があることを認識し、テロ攻撃からのリスク軽減策を日々実践すること、そして、普段の生活、学習活動、経済活動を淡々と冷静に営む行動こそが、テロに屈しない大切なあり方であり、ひいてはケニアを支援することだと思われまます。



ご静聴ありがとうございました。